

平成27年度 学校評価

兵庫県立錦城高等学校

1 教育目標

働きながら学ぶ定時制高校の生徒にとって、職業選択の幅を広げるため、学力向上は必要不可欠である。また、近年増加している学校生活に馴染みにくさを抱えている生徒にとっては、集団生活を営む上で必要な基本的な規律や基礎学力の習得が望まれる。それらを踏まえ、校訓の「勞學一如」の実現に向け、「社会性の涵養、将来を切り拓く強い心の醸成、自立した社会生活を営むために必要な確かな学力の習得」を目指す。

2 経営方針

1. 個々の生徒の実情に対応できる組織づくり
2. 自己肯定感を高めあえる風土の醸成
3. 安心・安全な活動場所づくり

3 平成27年度の重点

- | | |
|---|---------------------------------|
| ① | 学習意欲を高める「仕掛けづくり」に、積極的に取り組む組織づくり |
| ② | 「能力再発見チャレンジ」の推進 |
| ③ | キャリア教育を体系化し、進路指導の充実を図る |
| ④ | 防災教育の見直しと充実を図る |

4 学校自己評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
教科指導	基礎的・基本的事項が定着するよう教科指導に努める	①	個に応じた指導に資するため各種サポートチームを設け、改善策を講じた	B	サポートチームについては早期設置を含め、その組織体制を確立し、効果的に、また機動的に運用していく。 習熟度別指導や学校設定科目などの選択授業においては、少人数指導の効果を検証しながら展開していく。 公開授業週間を発展的に継続し、教材・教具の開発や指導方法の相互研鑽に努める。また、個別の生徒による授業評価の全体化・共有化を図る。
		②	習熟度別指導や同室複数指導を行い、学力の定着・伸長を図った	B	
	生徒個々の能力・適性を伸ばし、自ら学ぶ意欲と態度を養う	①	学校設定科目を多く設け、生徒の意欲や関心を引き出すような教育課程を編成した	B	
		②	公開授業や個別に行う授業評価を活用し、教材・教具の見直しを不断に行った	B	
	「わかる授業」にむけて、授業研究や教材開発を行う	①	公開授業や個別に行う授業評価を活用し、教材・教具の見直しを不断に行った	B	

領域	具体的目標	重点	具体的方策	評価	次年度への課題
生徒指導	規律ある生活習慣を身につけさせ、規範意識を高める	②	挨拶やマナーの重要性、基本的な生活習慣を確立することの大切さを説いた	B	自転車の二人乗りやゴミのポイ捨て、公共物の破損などは総体としては減少している。若干の限られた者へ粘り強く指導していく。 生徒が主体となる活動を意識して行事の精選や行事・ホームルーム指導をおこなう。 カウンセリングマインド研修での成果を教科指導や生活指導で活かしていく。また、保護者との連携を一層密にして信頼を得、協力体制の構築に努める。
	生徒が主体となる活動を企画・推進した		自主・自立の精神に基づき、他者と協力し、行事運営に携わらせた	B	
	生徒とのふれあいを密にし、多様な生徒の内面理解に努める	②	生徒と接する時間を増やし、心情に配慮しながら生徒理解に努めた	B	
進路指導	計画的な進路指導を行い、進路意識の高揚を図る	① ③	進路に関する情報提供を十分に行った	B	進路指導についての保護者の周知に課題があり、「進路だより」を発行するなどその解決を図る。 学年別のガイダンスやサポートチームの効果的活用を図る。 「生き方・あり方」教育としてのキャリア教育の実践を図る。
	個々の生徒に適切な指導が行える指導体制を確立する	② ③	進路ガイダンスや進路補習等を通じて、進路に対する意識を高めた	B	
	キャリア教育の一環として進路指導を推進する	③	日常の就労とは観点を換え、将来を見据えた上で就業体験を実施した	B	
環境整備	防災体制の整備・充実を図る	④	「学校防災マニュアル」を改訂し、それに基づく訓練を実施した	B	緊張感のある避難訓練にするため、訓練マニュアルを見直すとともに、訓練レベルを1段階あげる。 継続して不用物を廃棄し、職場環境の美化に努める。
	スペースの有効活用を図る	①	不用物の撤去・廃棄に努め、図書室、教材室を整備した	B	

5 学校自己評価に対する学校関係者評価

学校自己評価は概ね妥当であるが、保護者アンケート結果で「分からない」の比率が高いのが気になる。学校の取り組みが一定程度評価されているので、保護者アンケートの質問項目や取り方に一考の余地がある。また、教員アンケートも教員数が少ないので集計結果の扱いに注意を要する。少数意見にも配慮して取り組んでいくのが望ましい。